

すいしんいんセッション

～ 推進員同士で本音で語ろう！知恵と工夫を寄せあおう！～

< 推進員仲間とつながり、一緒に悩み、一緒に一歩！ >

認知症施策に関する質問

質問：

認知症施策推進計画策定にあたり、どのように本人に参加してもらったか、謝礼はどのようにしているかなど事例があれば教えてほしいです。事前にどのように打合せをしているのか、いきなり外部の委員の中に入れてもらうことが難しいかと考えています。

回答：

(金谷さん)

他の委員のみなさんと同様にお支払いしています。

(速水さん)

本人に委員として参加してもらうのはハードルが高いと思っています。家族会のつどいなどを通じて本人とコンタクトを取って、こちらから聞きに行くこともありだと思えます。

(谷口さん)

当市は条例作成及び推進計画策定に本人がワーキングチームメンバーとして会議に参加しました。

委員会ではなかったので、謝礼は出していません。また、本人の意見は、会議だけではなく、こちらから認知症サービスや本人の自宅等にも足を運んで声を聞きました。難しい話ではなく、これから望む暮らしややりたいこと等、聞いてみると計画に反映できる言葉がたくさんあると思えます。

質問：

認知症への正しい理解の普及率を出せと言われていたのですが、皆さんはどのように算出していますか？ それがないと包括の評価ができないそうです。

回答：

(近藤さん)

「認知症の理解の普及率＝包括の評価」の構図が理解できません。地域包括支援センターは、ものすごく多くの業務をしていて、国においても評価指標が示されていますので、評価ができないというところがまずわかりません。

普及率と言っている人に、分子と分母の定義を教えてください。「正しい理解」の定義もわからないので、逆に私も知りたいです。単純に率が出れば、簡便に評価ができるという発想だと思いますが、福祉を勘違いしないでいただきたい。

(金谷さん)

何を持って普及出来たかと、その町のビジョンを明確に。

(真子さん)

何をもって正しい理解とするのか。そもそも、伝える側が正しく伝えられているかどうか、誰の基準で、誰の判断かによりますよね…私は、肌感覚も大切だと思っています。参加した人からの声や相談に繋がるケースが増えてきたなど。

(速水さん)

非常に苦しいですね(笑)。正しい理解の定義と普及率の計算式、それが包括の評価のどこに関わるのかを確認してみたいと思います。どうしても必要であれば、提示された定義と計算式に沿ってはじき出したものを回答すると思います。もし自分が言われたらめっちゃ反発しちゃうと思います(笑)。

(谷口さん)

何をもって正しい理解ということにするのかわかりませんが、そのような数字を出すのはかなり難しいのではないのでしょうか？ その算出の仕方の根拠があるのであれば、それを行政から指示受けた方がいいと思います。ないのであれば、正しい理解とは何なのか？ということを行行政と考える機会を作ってみてはいかがでしょうか？